

共立女大 深山 静枝
○藤田 信子

1. 最近の衣生活は各種衣料の研究改善とその量産により、極めて豊かな状態にある。このような状勢の中で婦人の服装は、どのような材料が選択され、またどのような着用形式やデザインが好まれているのか一般の傾向を把握してみることは極めて興味深く、その実際の資料を得るために街頭において、季節別、地域別、年齢階層別に5か年継続本調査を行なった。

2. 調査の地域は都内3か所を選び、通行中の婦人を対象とした。なお、見かけ年齢を若年層（20代前後）中年層（30代～50代）高年層（60代以上）の3層に分けた。時期は季節毎に1日とし、午前午後1時間ずつ行なった。調査事項は着用形式、シルエット、柄の種類、色の系統、衿、袖など12項目である。調査方法は各項目毎に、その内容を印刷した調査票を用意して、通行人1人を調査員1人が観察し、該当個所に○印をするようにした。

3. 過去5か年の調査の結果、若干の資料を得ることができた。すなわち、各項目別にみると5か年の推移、各年の傾向、差異、既製服の普及、マスコミの影響による服装の画一的傾向など、婦人服のデザインについての一般的な好み、また流行の影響など知ることができた。今回は特に夏季のものについて具体的に報告する。